

チエルノブイリでの経験をもとに、住民と専門家の「共同研究」を実施

キノコの放射線量が 地図上で一目瞭然

福島における長崎大学の支援の特徴は、住民に寄り添うということ。押し付けるのではなく、そこで真に必要なとされていることに力を注ぎます。住民の不安に耳を傾け続けて生まれたのが「キノコマップ」です。

川 内村の戸別訪問では、そこで暮らす住民の不安を聞き、やってほしいことを拾い上げていきました。

高村教授は「そこではキノコの問題があると分かりました。きつかけは、住民が秋近くにキノコを食べてもいいのかと不安を話していたことです」と言います。チエルノブイリで、キノコを食べていた人は、放射性セシウムによる内部被ばくが高いと分かっていました。川内村のキノコを調べてみると、マツタケ、コウタケなどから比較的高濃度の放射性セシウムが検出されたのです。これがきつかけとなり、『キノコマップ』の制作を手がけることになりました。

お互いのできることを 組み合わせる

キノコ中の放射性セシウム濃度は、

採取された場所やキノコの種類などによって左右されますが、不明な点も多々ありました。そこで川内村内でとれたキノコ中の放射性セシウム濃度を測定する取り組みが始まったのです。高村教授は、「私たちは放射性セシウム濃度を測ることはできませんが、どこにキノコが生えているのかは分かりません。住民のみなさんは、どこにキノコが生えているのかよくご存じです。お互いのできることを組み合わせ、どこに生えているキノコの放射性セシウム濃度が高いのかというデータを集め、地図上にマッピングしたものがキノコマップです」と言います。マップを見ると、どこで採ったキノコに注意するとよいかが一目瞭然。測定したデータを活用することで、その後の放射線リスクコミュニケーションにも役立っています。

福島県川内村におけるキノコの放射性セシウム濃度の分布(キノコマップ)

